

老人保健施設の設立・経過・現況について学び、目標を立てる

老人保健施設（日本全体）の設立・経過・現況

1987年 厚生省（当時）がモデル老人保健施設7か所を指定して開始。

1988年 老人保健施設の本格的運営がスタート。

2000年 介護保険制度がスタートし、老人保健施設が制度化された。

2018年 3630施設、33.8万床、20万人のスタッフ

（要介護認定者数 2018年で658万人、2020年で681万人；高齢者が増加し、介護難民が増える問題がある）

老人保健施設 一羊館 の設立・経過

1996年6月 設立（初代施設長、鈴木光雄先生）

2013年8月 第2代施設長、桑原英眞先生

2019年10月 超強化型（注1；「超強化型老健」とは、「超強化型」、「在宅強化型」、「加算型」、「基本型」、「その他型」の5種類に区分された施設の中で、在宅復帰・在宅療養支援機能が最も高い施設）

（注2）在宅復帰・在宅療養支援指標を評価する10項目（在宅復帰率、ベッド回転率、入所前後訪問指導割合、退所前後訪問指導割合、居宅サービスの実施数、リハ専門職の配置割合、支援相談員の配置割合、要介護4又は5の割合、喀痰吸引の実施割合、経管栄養の実施割合）

目標

1：社会貢献として、介護難民（介護の難しい方）を引き受ける。

2：介護難民の引き受けには、相当のレベル（「超強化型」）が必要であり、レベルの向上を目指す。

